

Vol.27

発行元：NPO法人22世紀
八幡ルネッサンス協会
八幡市八幡高畑 10-76
TEL・FAX 075-981-6505
発行：年4回

知る・見る・考える
八幡市民の
交流誌

きずな

◆ 目次 ◆

八幡に生きる	… 1
古墳時代の至宝	… 2
中国で暮らして	… 4
ニュースを読む	… 6
探訪！歴史の町	… 10
『きずな』の文芸	… 12

八幡に 活きる

油絵に生かされて

奥村圭子



画業の主な経歴

◆2000～2002年に、上野の森美術館にて、日本の自然を描く展に入選。全日本アートサロン展入選。

◆2004～2006年に、八幡市展にて教育長賞、市長賞他受賞。市からの申し出を受け、作品「樹木」を寄贈。八幡市議会議長室に掛けられている。

◆海外活動としては、ジュネーブ、マイアミ、サンタフェ等のアートフェアに出展。

少女時代

1944年に京都市に生まれ、修学院離宮近くの修学院小学校に通う。一人っ子で人見知りの激しいひ弱な女の子でした。大きくなるにつれて負けず嫌いな性格や転校したこともプラスして友達もでき、やや活動的な学生生活を送りましたが、絵にはまだ興味はありませんでした。

絵をはじめたきっかけ

日々の生活と子育てに追われ気がついたら58歳になっていました。

次男が社会人になった時、「母さん、何もしないとボケるよ」と言われ、その一言に私も子ども達から卒業して何か始めようと思いました。その間、少し季節の花などを描き、玄関に掛けていたこともあり、カルチャーセンターに出かけました。

水彩画と油彩画に迷いましたが、たまたま油彩画の方に空気が出たのでこちらを選びました。安直な選び方でしたが、経験も何の知識もなかったことが却って良かったと思います。

画家になるきっかけ

カルチャーで6年間過ぎる頃八幡のサークルで人物デッサン

を指導されている西山喬先生に無理を承知でお願いし、個人指導をしていただきました。そんな中、先生から個展をやってみないかとお言葉を頂きました。丁度、還暦だったこともあり、息子の後押しもあって、京都の河原町三条角のギャラリー北野で初めて個展をしました。あの時の不安な気持ちは今も憶えています。

1週間の会期を終えた打ち上げの際に、西山先生から一歩踏み出してはと云われました。この一言がわたしの人生を変えました。画家としての道へのきっかけを作って下さった西山先生には感謝しかありません。

油絵の魅力

油絵は重量感があり、深く吸い込まれるような雰囲気があります。亡くなるまでに一枚でも多く心に残る絵を描きたいと、日々キャンパスに向っています。

苔むした風景や水の動きを描くことが多く、樹木では、硬い石や土でも、そこに根を張り、天に向かってしっかりと伸びる、そんな姿が好きです。私も地に足を着けて歩きたいし、他と繋がっていききたいと思います。人と関わるのが苦手な私で

したが、絵を始め、個展をすることによって、たくさんの方と出逢い、話下手な自分が変わっていく楽しさを味わいました。これからも、年齢を考えず、走り続けることでしょう。そして、絵筆が止まる時は、自己の終焉の時だと思っています。

最後に、自由に絵が描ける環境を与えてくれた家族と、応援して下さいる皆様に心よりお礼を申し上げます。
(聞き手、土井三郎)



第20回個展より 作品「蒼生」
(2023・10・18～10・23)

古墳時代の至宝

飛鳥・奈良時代の八幡(1) 約300基の横穴群

濱田博道

1、はじめに

今回から8回にわたり、「飛鳥・奈良時代の八幡」について連載します。八幡地域で特筆すべき飛鳥時代の内容として、①古墳時代後期から横穴墓が畿内で最多級築造されたこと、②百濟からの瓦博士らの来日により楠葉・平野山に古代最大(8基)・最古級の瓦窯が作られ、聖徳太子ゆかりの四天王寺の瓦が焼成されたこと、③また淀川を渡る人々の行き来を助けるために道昭により日本三古橋の一つである山崎橋が架けられたこと、④内里八丁遺跡・美濃山遺跡・女郎花遺跡・木津川河床遺跡などでの時代の建物跡が多く発掘されていること、⑤飛鳥時代から奈良時代にかけて古山陽道沿いに三寺院(美濃山廃寺、志水廃寺、西山廃寺)が建立され仏教の浸透・広がりが確認されること、などがあります。これらのことから飛鳥・奈良時代の八幡地域はダイナミックな動きをし、生き生きしていたと

いえます。

2、飛鳥時代とは

まず「飛鳥時代」についてです。「飛鳥時代 飛鳥付近の豊浦寺で推古天皇が即位する592年から奈良の都・平城京へ遷都(710年)するまでを指す。おおむね7世紀代。飛鳥周辺で宮殿が営まればじめ、仏教寺院が建立され、国際的な飛鳥文化が栄えた。古代の氏姓制から律令制へと展開する過渡期として位置づけられる。」と多くの辞書で説明されています。一方、美術史では「仏教公伝(538年)から天智朝までを飛鳥時代、それ以後平城遷都までを奈良時代I(白鳳)」「辻惟雄『増補新

西暦	507	592	645	710	752	794
	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代			
	樟葉宮で即位 継体大王	豊浦宮で即位 推古天皇	乙巳の変	平城京遷都	大仏建立	平安京遷都

版日本美術史』美術出版社など)と区分しており、違いがあります。このシリーズでは仏教公伝から平安京遷都までを主に扱っていきます。

3、南山城は畿内最大級の横穴群

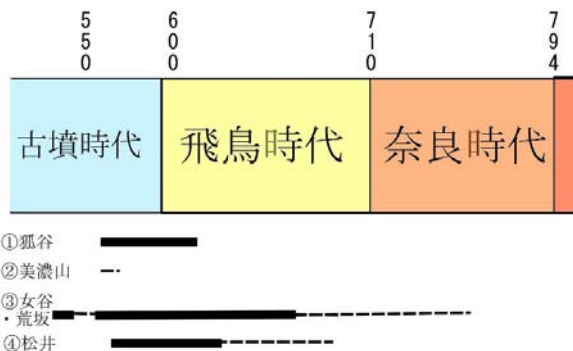
6世紀半ば頃から八幡市南部、京田辺市にかけて丘陵の横に穴をあけた横穴墓が造られ始めます。北から狐谷横穴群、美濃山横穴群、女谷・荒坂横穴群、京田辺市では松井横穴群、堀切谷横穴群、飯岡横穴群が造営されます。これまでの調査で女谷・荒坂横穴群は、80基以上の横穴の存在が確認されています。未発掘のも



のも合わせると八幡市で総数300基以上、京田辺市の横穴墓も合わせると計600〜700基の存在が想定されており、京都府内最大級、畿内有数です。

4、横穴墓の副葬品

横穴墓の副葬品としては須恵器・土師器・刀子など鉄製品・鉄鏃・耳環(耳飾)・瓦器・ガラス玉などが出土していますが、須恵器が最多で、他に杯(さかずき)、杯蓋、壺、甕などが続きます。横穴墓は群により副葬品の特徴が変わります。同じ群中の横穴墓でも立派で豊富な副葬品のある横穴墓もあれば、殆ど何もない横穴墓もあります。副葬品の中に東海系円筒埴輪(2基)、組合せ式石棺、唐式鏡(唐様式の鏡・瑞雲双鸞八花鏡)の出土した注目すべき横穴墓もあります。



横穴群の造られた時期

5、横穴墓の被葬者像

1980年代まで南山城の横穴墓は、その構造が南九州の地下式横穴墓と似ていることから、ここに移住させられた南九州の隼人(はやと)が昔の墓制を偲んで築造したと考えられてきました。1990年代に入り、京都南道路・第2京阪高速道路建設、2008年からは新名神高速道路整備事業に伴う遺跡の発掘調査により、新たに多くの横穴墓が発見され、調査・研究が進みました。その結果、南山城の横穴墓は隼人の墓制(地下式横穴墓)と同じでないこと、隼人は畿内の要衝のあちこちに移配されてい

るのに南山城だけ横穴墓を造るとすることの問題点、横穴墓は広く全国的に造られていることから横穴墓を古墳時代後期の墓制の中で考え被葬者像を再検討することとなりました。横穴墓の被葬者像として現在ではヤマト政権の地方官・国造の直属下(くのみやつこ)にあつて新たに台頭してきた階層の人たちと考えられるようになりました。たとえば、土器づくりなどの専門集団、渡来人や武人、有力家長層



女谷・荒坂横穴群発掘調査現場

など多様であった、と。八幡市から京田辺市の横穴墓群の周辺には隼人(山背国隼人計帳)、『正倉院文書』や土師氏(『日本書紀』雄略天皇17年3月2日条)、渡来系の松井氏(『続日本紀』天平宝字5年3月15日条)、高句麗の渡来人(『日本書紀』欽明天皇26年5月条)、内神社の祭神・味師内宿禰(うぢのすね)や山代内臣(やましろのうちにぬ)、『日本書紀』応神天皇9年4月条)の後裔などと共に、周辺の有力家長層、木津川左岸地域だけでなく、南山城のより広い範囲の有力層などの墓だと考えられています。

横穴墓が集中する一帯は古山陰・古山陽道と河内への峠越えが交差する交通の要衝であり、ここに中央政権が大規模な横穴群の造営に関わっていた可能性があります。それまで地域の有力者を通じて間接的な支配だったものが、中央政権の掌握が一般民衆まで直接的に及ぶようになり、古墳に埋葬されなかったこれらの有力家長層が横穴墓に埋葬されるようになったのではないかというのです。

6、なぜ横穴墓が造られたか 〜薄葬令との関わりから〜

横穴墓が造られるには中央政権の明確な意図があり、前方後円墳築造規制と関連しています。畿内では6世紀の末頃前方後円墳の造営が一斉に停止されます。このことは中央集権的な新しい政治体制を目指したことを物語ります。前方後円墳に代わり築造された大王墓は主に方墳で、これを主導したのが蘇我氏といわれています。大王墓以外では群集墳や横穴墓が造営されます。大王墓の方墳はやがて八角墳に変わります。文献では改新の詔(『日本書紀』孝徳天皇大化2年条)の薄葬令(はくさうれい)が目されます。この詔で中央豪族が大規模な墳墓を造ることを規制し、身分地位に応じて、墓の大きさや造る民の数、日数や喪葬用品を決めています。そのような規制は実質的にはすでに6世紀前半頃から始まっています。以上のような経過で横穴墓の造営へとなったと考えられます。

こうして造られた横穴墓は一回きりの使用でなく、追葬が行われ、中には平安時代初期まで使用されたものもあります。



(その六) 病気と事故

猪飼 丈士

海外暮らしで心配事は一番に病気、そして事故です。日本にいれば、行きつけの病院や医院がありますし、救急車もすぐに呼べますね。でも、海外ではそう簡単に事は運びません。

私が初めて海外で仕事をした国はカナダでした。1983年の6月でしたが、トロントから北へ2時間の辺鄙な田舎には、日本食レストランなど勿論ありません。しかし湖と森の自然があり、気持ちいい気候に加え



美味しい水と空気が溢れていました。もちろん病気の心配はなく、ああ、外国とはこんなに住みよいところなのだ、と思つたものです。上の写真はカナダ工場。

ところが、次に行った国は大違い。ああ、日本に帰りたいな、と、しみじみと思いました。その国はインドです。1988年、砂埃の街にブラウン管工場を建設する、1年がかりの仕事でした。

出張前に2回の破傷風の予防接種を受け、17種類の救急薬や病状リストを持参しましたが、現地は予想を超えて厳しいものでした。

北インドは春から気温が上がります。赴任は3月下旬でしたが、すでに40度の暑さでした。その年は「炎の5月」と新聞に掲載されたほどの猛暑続きで、首都デリーでの最高気温は45・7度を記録したほどです。

暑さに加えて不衛生な環境が追い打ちをかけてきます。天井には日本から持参したハエ取り紙を吊るし、床には蚊取り線香を焚き、飲み水は煮沸するなど、手を尽くしましたが病から逃れることはできなかつたのです。

まず、全員が下痢になりました。カレーを薄めたような便と発熱が続き、日本の「アクロマイシンV」も効き目がないひどい症状です。私も4日間休みをもらつて寝込みました。現地の医者が来て、「どんな薬を飲んでいきますか」と尋ねるので、抗生物

質の説明書を見せると、「おお、これは最後の最後に飲む薬です」と驚いて、黒い丸薬を調合してくれました。医者が驚いた高級な日本の薬は効き目がなかったのに、得体が知れず不安に思つたインドの丸薬で下痢は止まりました。なぜ回復したのか、いまでも不思議に思います。

あとで判つたことですが、一時帰国した同僚が、関空で下痢を報告し検査を受けた結果、「赤痢」と判明され隔離されて大騒ぎになりました。つまり現地にいた我々は全員が赤痢に罹つていたので。

激しい腹痛を訴えた設備メーカーのスーパーバイザーも発症しました。「インドは不安だから、日本の病院で診てもらいたい」と強く訴えられ、急遽チケットの手配をして緊急帰国してもらいました。

「急性の腎臓結石」だつたとの連絡が日本から届きましたが、なるほどと頷きました。というのは、水道水を煮沸しているヤカンの内側がいつもべつとりと真つ白になるからです。砂にまみれたこの地方の水は、石灰を含んだ硬水なので、煮沸しても全て取り除けないのです。

さらに辛かつたのは、食べ物でした。暑さや病気をはね返すには、な

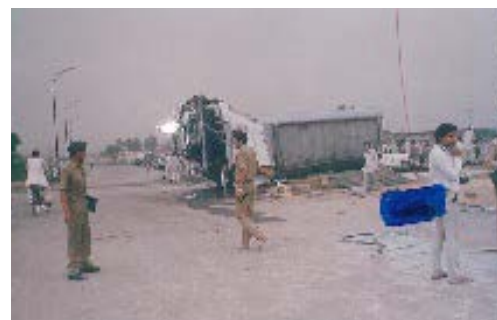
により食事が大切なのですが、弱つた胃腸には強いスパイスカレーやヨーグルトたっぷりのタンドリーチキンは喉を通らないのです。

もう一つは交通事故です。私たちは現地のマイクロバスに乗って、宿舍と工場を往復しましたが、痛ましい光景をなんども見せつけられました。横転したトラックやバス、その傍に白い布をかぶせられた遺体。

インドでは「死」がすぐ隣にいるような気がしました。

赤痢や結石をのり越え、奇跡的に交通事故にも遭遇せずに仕事を続け、昭和天皇崩御のニュースを「The Times of India」で知つた後に、やつと日本に戻りましたが、体重は40キロ近くまで痩せていました。平成元年1989年のことです。





次に行ったのはメキシコでした。10年後の1999年です。アメリカ西海岸のサンディエゴから岩肌とサボテンの間を車で2時間、メヒカリという街に新工場を作る仕事でした。国境を越えると、治安も暮らしも悪くなりますが、それでもインドと比べると楽園です。日本食レストランも1軒あり、屋台でタコスを着に、メキシコビールやテキーラをマルガリータで飲む楽しみもありました。でも油断大敵ですね。「レモンを垂らせば消毒になるから大丈夫」というメキシコ人を信じて食べた人が、生牡蠣にあたったのです。実際メキシコ人は、毎日のようにテキーラの肴として美味しそうに食べるのですから、酒好きの人は、その誘惑に勝てなかったのでしょうか。

ビブリオ菌による生牡蠣食中毒は、激しい下痢と発熱に襲われます。その人たちを町の医院に運びましたが、驚いたのは、患者はうんぶん苦しんでいるのに、先に支払いを済ませてくださいと、お金の話から始まったことです。

次に驚いたのは、「冷水で熱を冷まします」とシャワー室に入れられたことです。私たち日本人は、熱が出ると厚着をして、布団にくるまって汗を出して解熱を待ちますが、頭から水を被るといふ、火に油をそそぐメキシコの治療法はとても不安でした。拒否した人もいましたが、それも当然でしょうか。



メキシコの工場前のきれいな道路

ごみだらけの工場の周辺の道路



工場のステップから落下して足の骨折事故も起こりましたが、食中毒に比べたら、まあ、死ぬことなく、そのうち日本に帰れるでしょうと、周りは気楽なものでした。でもご本人の心中は大変だったと思います。インド、メキシコから始まりましたが、これらは海外出張扱いでしたから、健康保険をはじめ、救急薬品の持参等、私の後ろには「会社」というバックボーンがありました。辛い思いをしましたが、いざという時には助けてもらえるという安心感があつたのも事実です。

2005年に深圳の工場から仕事のお誘いを受けたときに、どうする

かと迷ったのは、定年の身には、もはやバックボーンがないという不安でした。

2003年には北京でSARS(重症急性呼吸器症候群)による100人の死者がでしたが、青海省では6000羽の渡り鳥が鳥インフルエンザで死にました。その前には、小泉首相の靖国神社参拝を皮切りに発生した反日運動で、日本食レストランに生卵を投げつける中国の若者の姿がテレビにも映りました。

日系の中国深圳工場への現地採用が条件でしたから、そんな状況下の中国へ一人で出かけることに、家族もすぐには賛成してくれませんでした。

それでも深圳に向かったのは、現役の折、上海で仕事をしたこと、そしてインドで一度死んだ経験が後押しをしてくれたのだと思います。あの時と比べたら、多分耐えられるだろうと。

今回は中国での話をいたします。

二ユースを 読む



「2023年パレスティナ・イスラエル戦争」を読み解く鍵

足立昌治

今回は、前回にお示しした「ロードマップ（暫定）」に従って、「パレスティナという地域」「パレスティナ問題の定義」「イスラエル建国の経緯」について述べたい。その中で、少しわき道にすることもお許し願いたい。

なお、本稿を書くにあたって、参考させていただいた本をご紹介します。

●高橋和夫『なるほどそうだったのか!! パレスティナとイスラエル』（幻冬舎 2010年）

●高橋和夫『なぜガザは戦場になるのか イスラエルとパレスティナ攻防の裏側』（ワニブックス PLUS 新書 403 2024年）

●中川浩一『ガザ 日本人外交官が見たイスラエルとパレスティナ』（幻冬舎新書714 2023年）

3. パレスティナという土地、パレスティナ問題とは

(1) パレスティナという土地

パレスティナという場所は、紀元前13世紀ごろに栄えた「ペリシテ（人の文明）にちなんだ呼び方で、紀元2世紀のローマ皇帝ハドリアヌスによって命名された。現在における範囲は、シリア・ヨルダン・エジプトに囲まれた範囲を指す。およそ北緯31度から33度の間、およそ東経34度から35度30分の間、地中海性気候の地域である。TVなどでもご覧になっただろうが、乾燥していて夏はほとんど雨が降らず、冬にすこし降雨がある。耐乾性の作物と小麦などの穀物栽培が行われている地域である。ユダヤ教とキリスト教、イスラム教（ムスリム）の聖地であるエルサレムがあり、11世紀の十字軍の後には、イスラム王朝が展開し、16世紀以降はオスマン帝国領となった。

歴史的にパレスティナに住む人々は、民族的にはアジア人の系譜を持つトルコ人（オスマン帝国）に支配された、アラビア語を話す「アラブ人」である。イスラム教の聖典、コーラン（クルアーン）はアラビア語で書かれているので、西アジアに住むイスラム教徒はアラビア語を母語とす

る「アラブ人」ということになる。なお、オスマン帝国支配下のパレスティナでは、イスラム教徒、ユダヤ教徒、キリスト教徒が争いもなく暮らしていたことを付け加えておく。

地中海性気候の下で、アラブ人たちは果物（柑橘類など）、小麦栽培など農業中心の生活を営んできた。第一次世界大戦でオスマン帝国は敗北し、大国とくにイギリスが介入し、国際連盟の委任統治領となったが、イギリスによって自給的農業は、輸出向けの農業に転換された（柑橘類はイギリス向け）。イギリスは、ユダヤ系銀行とユダヤ系の起業家の進出を進め、ユダヤ人たちは、小麦生産と果実などの輸出に商機を見出し、アラブ人の果物生産とは対立する傾向にあった。また、隣国シリアやドイツ、アメリカ合衆国などとも貿易取引があり、イギリスやユダヤ人にとっては商売になる土地であった。また、イスラエルというハイテク産業や軍事産業のイメージが強いが、ユダヤ人入植地（ユダヤ人が支配する地域）には農地があつて、食料は自給率が最近の数字では95%である（日本はカロリーベースで38%）。ユダヤ人の入植地（パレスティナ人の土地だった所）は、住宅地だけでなく、

農地も存在していて、イスラエルの人々の胃袋をほぼ満たしている。

(2) 「パレスティナ問題」の定義 ↳そもそも論

現在の「パレスティナ問題」は、1948年の第一次中東戦争によって、故郷パレスティナの地を離れて難民とならざるを得なくなった人々が発生したことが出発点であると考えられる。第一次中東戦争によって、イスラエルに土地と住居を奪われた人々がパレスティナのヨルダン川西岸地区とガザ地区、周辺諸国の難民キャンプに身を寄せたという事実がこの問題のスタートラインである。第一次中東戦争当時、イスラエルはパレスティナ側が自主的に出ていったと主張していたが、公開されたイスラエル政府やアメリカ政府の公文書の検討からそれは成り立たないことが確定している。

一方、パレスティナの地における、ユダヤ人入植者とパレスティナ人の対立関係・問題を「パレスティナ問題の発端」と考える研究者もいる。それは、ユダヤ人たちが、パレスティナの不在地主から土地を買い、自分たちで耕してパレスティナ人の小作人を排除した（「モシヤブ」と呼

「キブツ」の形成) ことから、ユダヤ人とパレスティナ人の対立が始まったとする考え方である。そして、第一次中東戦争につながっていく。

4、イスラエル建国の経緯と その後の戦争

本稿では、パレスティナ後にイスラエルという国家が建設された経過を、先ほど紹介した高橋和夫氏の著書に依拠しながら見ていく。

まず、イスラエルという国家の建設と移住をすべてのユダヤ人が進んで行ったわけではないことを述べておく。宗教的・職業的にマイノリティとして差別視されていたユダヤ人中で、自分たちの国家を求めて行った建国運動を「シオニズム」といい、それをすすめた人々を「シオニスト」という。シオニズムが起こったのは、19世紀の末であったが、ユダヤ人中でシオニズムを支持する人々は、当時は少数であった。その中心は、テオドール・ヘルツルという人物である。彼らシオニストは、建国の地を世界に求め探した。候補地としては、カナダや南アフリカ、アルゼンチンやウガンダなどが上がった。結局パレスティナに狙いが定められたのは、紀元前の鉄器時代にパレスティ

ナの地に「イスラエル王国」「ユダ王国」があったこと(日本でいえば『古事記』『日本書紀』レベルの「神話」に基づく根拠である)と、第一次世界大戦前の帝国主義イギリスやフランスが、中東地方を得ようと画策してユダヤ人の入植を進めた結果である。世界に散らばり、居住している場所の言語を話し、ユダヤ教を信仰するユダヤ人にとって、イスラエルに居を移すことは、日常の人間関係や教育などの問題から、必ずしももろ手を挙げて賛成できることではなかったのである。

しかし、結果としてイスラエルが建国されたのは、19世紀のヨーロッパ社会の風潮ということができる。第一に、シオニズムが起こった19世紀末、ヨーロッパでは民族主義が台頭し、宗教的・職業的にマイノリティであったユダヤ人を迫害・虐殺することが是とされた(「ボグロム」の発生)。第二に、欧米の19世紀末は帝国主義の時代でもあった。欧米列強はアフリカ・アジア・南アメリカを植民地として獲得しようとし、帝国主義国間の利害が対立して世界戦争に発展した。差別され虐待されたユダヤ人たちは帝国主義の風潮の中で、「自分たちの国」をつくらうと考えた

のである。第三には、当時ヨーロッパに広まりつつあった「社会主義」の影響がある。搾取を否定し、私有財産を持たない共同生活こそ理想の生活であると考えたのである。「キブツ」という共同農場、私有財産を極力持たない共同生活はその実現ということになる。以上3点のヨーロッパ社会(ユダヤ人社会も含む)の風潮が下地となり、次に述べるイギリスの「三枚舌外交」やヒトラーのナチスドイツのホローコーストがポンプ役となって、ヨーロッパからパレスティナの地にユダヤ人が「押し出されて」きたのである。

20世紀に入ると、第一次世界大戦において、イギリスの外交が問題を複雑化させる。第一次世界大戦では、ドイツ・オーストリアの側にオスマン帝国が加わった。これに対し、イギリスは、オスマン帝国に混乱を起こさせるため、パレスティナ人の蜂起を呼びかけ、イギリスの勝利の暁にはアラブ人(パレスティナ)の独立国家をパレスティナに建国することを約束する。これを、イギリス駐エジプト高等弁務官ヘンリー・マクマホンとメッカの太守であったフサイン・イブン・アリーとの間で書簡が交換されたので、「フサイン・マク

マホン書簡」という。一方で、イギリスはユダヤ人の財力に目をつけ、シオニストたちの戦争協力を求めて、戦争に勝利したのちには、パレスティナに国家のようなものを許すと1917年に表明した。それは、イギリス外務大臣アーサー・バルフォアがユダヤ系貴族のロスチャイルド男爵(ウォルター・ロスチャイルド)に送った書簡で、バルフォア宣言と呼ばれている。つまり、一つの土地に二つの国家の樹立を認めたことになる。さらには、イギリスはフランスに対して、オスマン帝国のアラブ地域を自分たちで分割する約束をしていた。これをサイクス・ピコ協定という。サイクスはイギリスの中東専門家マーク・サイクス、ピコはフランスの外交官フランソワ・ジョルジュ・ピコである。この協定では、現在のシリアとレバノンをフランスの勢力範囲に、イラク・ヨルダン・パレスティナをイギリスに勢力範囲に分割することが定められていた。つまり、同じ土地をアラブ人とユダヤ人に分け与えるようなふりをして、実は自分たちのものにしようとしていたのである。これを「イギリスの三枚舌外交」と呼ぶ研究者もいる。結果は、第一次大戦後にパレスティナの地は、

◀ イギリスが国際連盟から統治を委任される「委任統治領」となり、パレスティナ人とユダヤ人の双方への約束を反故にして、イギリスの「三枚舌外交」の狙い通りにその勢力範囲に組み込まれたのである。

1930年代には、ヒトラーのナチスが、この世で最も強く優秀であるドイツ民族を穢してきたものがユダヤ人の存在であるとして、ユダヤ人の大量虐殺を始めた。ヨーロッパのユダヤ人たちは、ヨーロッパの国々に受け入れを拒否され、パレスティナに命と自由を求めて移住した。この時点では、ユダヤ人たちはイギリスの側に立って戦争に参加した。ドイツの勝利はユダヤ人のせん滅を意味すると考えられたからである。しかし、戦争が連合軍有利に傾き始めると、シオニストたちは、パレスティナの地で独立・国家樹立を求めるゲリラ闘争を始める。イギリスはシオニストたちの攻撃に手を焼いてパレスティナを放棄し、国際連合に問題の解決を丸投げした。1947年、国際連合は、パレスティナの分割案を提案した。領土に関しては、海岸部分をユダヤ人に、内陸部分をパレスティナ人に分割し、ユダヤ教とキリスト教とイスラム教の聖地である

エルサレムは国際管理地域にするというものであった。この分割案は、1947年の国連総会で賛成多数で可決され、シオニストはこの決議を受け入れ、イスラエルの建国を宣言した。アラブ側は、もともとアラブ人の土地であったものを、欧米諸国が中心となつて勝手に分割するという理由で、受け入れを拒否した。パレスティナ側が決議を受け入れなかったもう一つの理由は、当時の人口がユダヤ人65万人でパレスティナ人100万人を超えていたが、土地の分割はパレスティナの55%をユダヤ人に分割するという、不公平なものであったことである。そして、パレスティナを支持する周辺のアラブ諸国は、イスラエルを倒すために戦争を開始する。これが1948年の第一次中東戦争である。

以下、4回にわたる「戦争」を略述しておく。第一次中東戦争は、結果はイスラエルがパレスティナの約78%の土地を支配下に置いて勝利した。第二次中東戦争は、1956年にエジプトがスエズ運河の国有化を宣言し、それに対してイギリス・フランス・イスラエルがエジプトに侵攻した戦争である。アメリカとソ連の即時停戦要求を受けてイギリスと

フランスは1カ月で戦闘を停止したが、イスラエルは継続。アメリカ大統領アイゼンハワー（共和党）がイスラエルに圧力をかけて1957年3月にシナイ半島から撤退させた。この戦争で、中東におけるイニシアティブは、イギリス・フランスからアメリカ・ソ連に移ったと言われている。第三次中東戦争は、1967年5月、エジプト大統領ナセルが、シナイ半島に軍を送つて国連監視軍の撤退要求し、アカバ湾から紅海に抜けるチラン海峡を封鎖したことに対するイスラエルの奇襲攻撃で始まった。イスラエルをアメリカが支援し、アラブ諸国をソ連が支援した。イスラエルが勝利し、エジプトが敗北してナセルの権威が失墜した。第四次中東戦争は、1973年10月、エジプトとシリアがイスラエルを奇襲攻撃したことで始まる。石油輸出機構10カ国は、イスラエルが第三次中東戦争以来占領してきた土地から撤退するまで、毎月5%以上の減産することを決議し、「オイルショック」が起きた。

以上、4回にわたる中東戦争を見てきたが、その後もイスラエルは占領地に軍政を敷いたままで、パレスティナ人をイスラエルの軍律に従わ

せようとした。1982年6月、イスラエルはレバノンに侵攻し、レバノン戦争が起きた。この時、イスラエル軍に包囲されたPLOは拠点としていたベイルートからチュニジアのチュニスに亡命した。しかし、パレスティナは依然としてイスラエルの占領下にあつて、パレスティナ人の土地をユダヤ人が奪っていた。そして、1987年より、パレスティナ人の大人だけでなく女性や子供も石を投げてイスラエルに抵抗するインティファダが発生する。一方で、この年の12月に、反イスラエル・反PLOのハマス（ハマス）が発足するのである。

.....

ここで、以下の質問を受けたので、前掲の高橋和夫氏や中川浩一氏の著書を参考に、現時点での「答え」を述べさせていただく。

質問1「なぜイスラエルはジェノサイドを行うのか」

質問2「イスラエルはなぜパレスティナと共存しようしないのか」

これらの質問には、次の諸点がその原因（回答）と考えている。

1、今回の文章では詳しく書かなかつたが、1948年以来、イスラエルにしてみれば、パレスティナ人の抵抗運動⇨自爆テロ、インティファダによる投石、ハマスによるミサイル攻撃など⇨に生命を脅かされてきた、という意識が強くなることである。

パレスティナをめぐる紛争の中で、今回ほどイスラエルの被害（死者1200人以上、人質200人以上）が大きかつたことはない。そして二度とこのような被害を被らないためには、ハマスを根絶やしに、パレスティナ人をパレスティナの地から追い出すしか方法はないと考えている人が多いからである。

2、イスラエルにもパレスティナ人との平和を望む人もいるが、パレスティナ人をパレスティナから追い出し、パレスティナをユダヤ人の楽園とすることは神の導きであると公然と主張する人々もいる。イスラエルは、少数政党が林立している政治状況であり、何回選挙をやっても単独で過半数の議席を獲得する政党は現れない。従って、第1党が譲歩しつ

つ連立を組み、少数政党が政治のキャスティングボードを握っているという状況である。つまり、パレスティナ人を敵視し極端な行動を主張する人々は必ずしも多数ではないにもかかわらず、内閣は極端な主張に譲歩せざるを得ないということである。この状況が、今の戦争を支えていると考える。

3、イスラエルは、人口比で日本の自衛隊の2・5倍の兵力を持つ軍事国家であり、国民皆兵制である。パレスティナ人のテロから自分の生命と国民の安全を守る戦争は当然の戦争であると考えている国民が多いということである。なぜそういう思考になるのかというと、ナチスドイツによるホロコーストをはじめとした、ユダヤ人に対する差別と生命まで奪った迫害の記憶であり、その記憶が第二次大戦後に生まれたユダヤ人に語り継がれているからである。そのことによつて、「自分たちは被害者なのだ」という意識を再生・増幅させていることがこのジェノサイドをエスカレートさせていると考えられる。そして、その思考を後押ししているのが、かつてのホロコーストを持ち出されると従順な仔羊になつてしまうEUの大国ドイツのイスラエルの態度（一貫したイスラエルへの援助）なのである。

4、1948年以前から始まっている、ユダヤ人がパレスティナ人を追いつ出した後に手にした「入植地」を、今さらパレスティナ人に返すことなどは考えることもできないという思いが多く存在する。

5、ネタニヤフ政権は戦時非常時内閣なので、和平が訪れ戦闘が終われば、今回の戦争の責任（ハマスの大規模な奇襲攻撃を許したこと）を問われて失脚する。だから戦闘はやめられない。

そして、アメリカ大統領選挙でも、ネタニヤフに対して実効性のある強制力行使できる候補者がいないことである。トランプはもちろんネタニヤフに攻撃をやめるとは言わない。ところがバイデンもアメリカにおけるユダヤ人票を気にするあまり、イスラエル支持を打ち出していて、このままではアラブ移民票を取り損ねる⇨彼らは投票に行かない、という危機に陥っている。この状況に胡坐をかいて強気に出ているのがネタニヤフだと思う。

答えになつていないかもしれない

が、質問はあくまでも第三者の立場の質問で、戦争を行っている人々は、このような質問の内容は考えてもいないと思う。そこがこの戦争の悲劇でもある。しかし、この「答え」で書いてきたことは、戦地であるパレスティナのイスラエル人⇨ユダヤ人に当てはまることで、アメリカのユダヤ人たちはそうは考えていない。それは、アメリカをはじめとしてヨーロッパでも即時停戦を求めるユダヤ人の声が日々大きくなりつつある事実でわかる。従つて、この戦争を終わらせるには、イスラエル以外のユダヤ人の力、そして、圧倒的な世論が「即時停戦を求める」ことに大きく傾く必要があると考える。

そして、根本的な解決は、イスラエルもパレスティナも譲歩しつつ妥協できる内容での2国家併存であると思う。



「鳥羽・伏見の戦い」の 決戦地・橋本

田坂喜彦

反幕府勢力を監視した橋本陣屋

江戸時代末期、尊王攘夷論者や長州藩などによる討幕運動が広がりました。このような状況の中、江戸幕府は反幕府勢力を監視し、警備する目的で「橋本陣屋」（橋本焼野）を京街道の東側、現在の京阪橋本駅の南側、橋本公民館の前あたりに築きました。

1858年（安政5）、突然、京都所司代と京都町奉行の与力・同心が橋本に来て縄張り（縄を張って、建物の位置を定める）を行い、1860年（万延元）には橋本陣屋の建築工事は完成しました。土地は徳川將軍の朱印状によって直接分与されたもので、本来は勝手に売買できない土地でした。幕末期には百姓15人、商人4人、社士2人の所有になっていました。朱印地頂戴者6名の社士の土地にまとめて売買の届けを出しました。土地の持ち主には年貢代



橋本陣屋復元図（八幡市）

橋本陣屋地復元図

米が支払われました。敷地は5000坪におよび、北門（日常は閉じる）からは館2棟、馬6頭分の厩、番所が並び、京街道に通じる西門の横には武器庫や兵士の宿舎である長屋が配され、土蔵2棟や米倉もありました。

国・史跡となった「楠葉台場跡」

1863年（文久3）には、京都守護職の会津藩主松平容保が、淀川両岸に「台場」の建設を幕府に建言

します。それ以前にあった台場建設

計画は外国船の京都侵入を阻止するためのものでしたが、松平容保の目的は、「橋本陣屋」と同様に尊王攘夷派志士の京都侵入を阻むためでした。

1865年（慶応元）に、現在は跡地が国史跡となっている「楠葉台場」（枚方市中之芝）が完成します。日本で唯一残る河川台場で、淀川対岸にも西国街道沿いに梶原台場、さらに楠葉台場対岸の淀川河川敷に高浜船番所（高浜砲台）（島本町高浜）

が設けられました。「高浜砲台」は1866年（慶応2）、現在は島本町高浜の淀川河川敷のゴルフ場になっているところに仮設で建てられ、高さ2・4m、周囲約180mの規模でキャノン砲五門が設置されていました。

楠葉台場は、稜堡式築城を採用し、堀（西側は大谷川）と土塁で守られ、南側に3カ所のカノン砲を備えた大砲台が設けられました。見張台や火薬庫もありましたが、北側は土塁も堀も半分程度しかなく大阪側を意識した造りになっていたので、のちの鳥羽・伏見の戦いでは北側から攻めてこられて防御線としての機能は果たせませんでした。

京街道はルートを変更して台場内に引き入れられ、取り調べの番所も設けられました。しかし、1866年（慶応2）1月19日、指名手配中の坂本龍馬と長州藩士が川船で通りましたが、当時は幕府方だった薩摩藩の船印をつけていたため、そのまま京へ向かいました。この直後に、薩長盟約が締結されるということが起こります。水上の監視を強化するため、楠葉台場側にも隣接して附属の「船番所」が設置されます。

現在、ここには「戊辰役 橋本砲臺場跡」と刻まれた石碑（三宅安兵衛遺志碑Ⅱ1028年(昭和3)建立）が立っています。「楠葉砲台」と書かずに「橋本砲台」と書かれているのは、新政府軍が京都から見た攻撃目標が「橋本陣屋も楠葉台場も一体のもの」と見えたからでしょうか。



国史跡「楠葉台場跡」

橋本の町の120軒のうち82軒が焼かれた「鳥羽・伏見の戦い」

1868年(慶応4)の1月3日に「鳥羽・伏見の戦い」が鳥羽と伏見で始まりました。政府軍が優勢で、1月5日の淀の「千両松」や「富の森」

の戦いでも旧幕府軍(幕府旗本隊・見廻組・会津藩・桑名藩・小浜藩・新選組など)は敗退し、木津川を渡って「橋本」に後退します。そして、1月6日の「橋本」が最終決戦の場となりました。

橋本陣屋や京街道筋などで守備をする旧幕府軍は、ここでも苦戦を強いられます。さらに、橋本の対岸・高浜の船番所(高浜砲台)からも、4時間も橋本に火砲を打ち込んできました。幕府軍の津・藤堂藩が、前日に勅使・四条隆平の説得で新政府軍に帰順したためです。

橋本の町も120軒のうち82軒が焼かれます。

午後4時頃には、旧幕府軍は総崩れになり、全軍が大坂城などへ向けて敗走します。橋本陣屋は長州軍に占拠され、建物は武器庫と米倉を除いて焼き払われます。陣屋内の兵糧米や衣類、雑具は橋本町内の被災者などに与えられ、武器は人足を使って京都に持ち帰りました。楠葉台場も新政府軍に占領されます。

江戸幕府の命運を決めた鳥羽・伏見の戦いは、戊辰戦争の最初の戦いでした。戊辰戦争は、江戸城無血開城後も東京・上野、新潟・長岡、山形・会津などの戦いがつづき、1869年(明治2)5月18日、北海道・箱館(函館)での戦いで旧幕府軍が敗北し、ようやく終結します。「橋本」の戦いでも参戦した新選組の土方歳三が、箱館で戦死したのは周知のとおりです。(つづく)



橋本陣屋跡
旧バスロータリー周辺。
対岸左手の大きなマンションの所に高浜台場があった

『きずな』の文芸

連句はなんだか面白い

小笠原信

連句は難しい。ぼくの力ではできない、とずっと思っていた。

凡そ15年前に、毎月5000円の月謝を払って俳句の勉強を始めてから、雑誌等の連句に関する記事が目に入ることはあった。だが、五七五音で独立する俳句と、さらに七七五音を付けて繰り返ししていく連句の間には、深い溝、高い壁がある！と感じていた。

2年前に、先達の重悟さんから熱心に誘われることがなければ、100%間違はなく〈連句の世界〉に足を踏み入れることはなかった。『徒然草』の五十二段にあるように、まさに「先達はあらまほしきことなり」である。少し勇気を出して、好奇心を働かせて、実際に連句の会に参加してみると、予想外に面白く楽しい！どうか皆さんも先ず覗いてみてください。

協賛金のご協力をお願いします

人により、連句の面白み、楽しみ

は様々と思う。駆出し3年目のぼくの場合は、①〈予習・復習なしで可〉の魅力である。勿論した方が良いし、

上達も早いに違いない。だが、しなくともお咎めなし。大胆に言うとう、

その場での即興的作句で可！音楽で言えば、ジャズのアドリブ♪不

出来の場合は、メンバー(連衆)やりーダー(捌)に助けを乞い、添削をし

てもらえる。切磋琢磨というよりも協業・共同作業的で助かる。②〈シャ

ンピング・飛躍の楽しさ〉である。連句の会に参加していて、一番の醍

醐味は、言葉の飛躍、場面の転換！連句の根底にあるのは、(恐らく)野

暮ではなく、粹・乙を求める心なので、前の句との同景・同趣は嫌われる。

かといって、全く関連がないと興覚めである。俳句での「取合せ」(二句一章)句でいう〈句い付け〉くらい

が丁度よい付け具合のようである。さらに、二句前の句(打越)から離

れている句、転じている句でないとして停滞していると言われたりする。こ

の辺の加減が微妙であり、楽しさの反面の、正直いって苦しさでもある。

時々冷や汗も恥もかく。

直近の「二水会」の作品(二十韻の冒頭)を紹介してみよう。

元旦に何の因果やかかる地震なみ 重

天為人の年の明けたり 喜

乗り継ぎの叶はぬままに旅寝して 信

北か南か賽を振るなり せ

(重は土井重悟、喜は黒澤喜美枝、せは吉川せい子の略)

巧く付いたり、転じたりしているだろうか。三句目のジャンプ力は不足気味か？ ぼくの好きな中島みゆ

きの歌には、見事にジャンプしている曲がたくさんあり、いつも感服！

この〈転じ・転換〉は、学生時代に勉強した〈起・承・転・結〉の作

文の〈転〉に相当する。この意味で、発句からの四句は、〈発句・脇句・第

三句・結句〉と捉えることも可能だと思ふ。また、連句の連なりは、最

後の句(挙句)に向って続く〈連想ゲーム〉だと言えらる。音楽では、協奏曲

などの第一楽章から、第二、第三、第四楽章に例えられるだろうか。

ご存知の俳聖・松尾芭蕉さんは、門人の中には俳句の上手は多いが、連句は自分が一番だと自信を見せている。この発言は、翻つて芭蕉さんは、門人の句に開かれており、弟子の句の読み取り上手だったということであろう。出座した者たちの句を的確に受け止め、転じ繋げていく、その名人だったのに違いない。

連句が出来上がる時には、苦吟しながらも、想定外の面白さに仕上がること(時々)ある。この意味でも、③〈出座した者全員で作る面白さ〉、これが連句最高の面白さ、楽しさと言える。

お互いに刺激し合ったり、気付き、啓発し合ったりして出来上がっていく。これが「座の文芸」と言われる由縁だと思ふ。

兎も角、自分で作って仕舞いがちな壁を作らず、または乗り越えて、ここ地元八幡・男山の〈二水会〉の様子を見に来てください。

◆毎月第2水曜日、午後1時半より見学自由！(2・25・2024)

(郵) 00940-8-196292

(銀) 京都銀行男山支店

普通預金

4165224

NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会